

かみす

Pick up

▶神栖市はさき保健・交流センター
オープン

特集

まちの魅力再発見

防災備蓄倉庫ってなに？

備える

神栖中央公園の一角。倉庫の中には数えきれないほどの物資が、整然と保管されています。市内には、このような物資拠点が3カ所あります。さらに、公民館や小中学校などに21カ所の防災備蓄倉庫が……。いざ災害が発生したとき、避難所運営に欠かせない防災備蓄倉庫を紹介します。

AR 広報かみすが
動き出す



[COCOAR]



アプリをダウンロードし
表紙にスマートフォンを
かざしてください。
詳細は16ページ

特集

備える

防災備蓄倉庫ってなに？



今回は、防災備蓄倉庫にスポットを当てて災害への備えに迫ります。皆さんは最近、防災について家族や身近な人と話し合ったことはありませんか？ 実際に、どういう備えをしていますか？ この機会に見直してみましよう。

自然災害にどう備えるか

私たちにとって忘れることのできない3月11日。あの東日本大震災から、今年で12年が経ちます。日本は、位置や地形、気象など自然災害が発生しやすい条件がそろっており、これまで地震、津波、台風、豪雨、豪雪、火山噴火など多くの災害に見舞われてきました。ニュースなどで

災害を目の当たりにしたとき、「我が家の備えは大丈夫だろうか？」と自分のこととして考える。それがとても大切な防災の第一歩です。

神栖市で想定される災害は、洪水、土砂災害、津波などが挙げられます。とくに利根川沿岸で堤防が整備されていない区域は、大雨による増水に注意が必要です。また、神栖市は海と川に挟まれているため、津波が発生したときは川からの浸水にも備えなければならず、鹿島港からの浸水も広範囲に及ぶとみられています。他にも、地震や台風、それによる断

水や停電などには関わりがありません。そこでは、備蓄という面から防災について考えてみます。



公園で防災の工夫を発見！

神栖中央公園は、市の防災拠点。広大な園内のあちこちに、防災の工夫が凝らされています。いざという時に、ベンチは炊き出し用の「かまど」に、一人掛けのイスはトイレに、パーゴラは救護所に早変わり。地面の下には100トンもの飲料水を貯める耐震性貯水槽が隠れていて、防災井戸は、手動で水を汲み上げることができます。さらに、自家発電機、太陽光発電型LED照明、ヘリポートまであります。

そして中央芝生広場の東側に見える建物が、防災備蓄倉庫です。いっ

物資拠点

● 神栖市総合防災備蓄倉庫

● 神栖市役所防災備蓄倉庫

● 波崎総合支所・
防災センター防災備蓄倉庫



①



③



②



⑥



⑤



④

①神栖中央公園の総合防災備蓄倉庫 ②飲料水は約4万本を備蓄
③子ども用の物資もある ④スターターを引き上げ発電機を起動する安井さん ⑤防災トイレ用テント ⑥ワンタッチで組み立てられる防災ルーム。「キャンプ道具のような扱いやすさ」と語る額賀さん

たい中に何が
入っていて、い
つ、どのよう
使うのか、防災
安全課の安井貴
弘課長補佐、額
賀桃子主事に聞
きました。

「市内にはこ
こを含め3カ所
の物資拠点があ
り、さらに公民
館や小中学校
など21カ所に備
蓄倉庫があります。神栖市全体で、
1万人・1週間分の食糧と飲料水を
備蓄しております。避難所を開設し
たときに必要となる水や食料、毛布、
資機材などをそろえており、市内の
各避難所で物資が不足したときはこ
こから運び込みます」

防災備蓄倉庫の中身は？

神栖中央公園の防災備蓄倉庫は2
階建てで、備蓄スペースは975平
方メートル。さっそく1階から見学
をスタート！

「新型コロナ感染症対策などで、
パーティーションテントや簡易ベッド



防災井戸と、いざというとき防災トイレになるイス

などを拡充した結果、以前よりプラ
イバシーが保たれ、より心身への負
担が少ない環境となっています」

実際にパーティーションテントを組
み立ててもらいました。肩にかけて
持ち運べる丸いバッグにテントが収
納されており、それを取り出し、広
げて立ち上げると四角い箱状になり
ます。床に断熱効果のあるアルミ
シートを敷けば、防災ルームのでき
あがり。天幕を開けておくことで、
体調不良の方をすぐ発見できます。

「背の高いパーティーションテント
も各避難所に一つずつ備え、女性の
更衣室や授乳室として活用できるよ
うにしました」

同じく防災トイレ用テントも、コ
ンパクトに収納しワンタッチで組み
立てられるタイプです。他にも炊き
出し器具、発電機、照明器具、燃料
携行缶、給水袋、車いす、担架、台
車、ウェットタオル、ペーパー歯磨
きなど、さまざまな物資が整然と保
管されていました。

便利で多彩な非常食

続いて2階を見学。ここだけで食
料が約8万食、飲料水が約4万本備
蓄されています。棚に積まれた箱を

見ていくと、ドライカレーや山菜おこわなど、味わい多彩なアルファ米をはじめ、おかゆ、パン、パスタ、スープ、味噌汁、甘いお菓子、野菜ジュースなど、驚くほど多品目がそろいます。

「無事に避難したら、次に重視すべきは食事で栄養を取ること。必ず担当者が試食して、おいしいものを備蓄しています。最近ではアレルギー対応やハラル対応の保存食も入手できますし、また粉ミルクのほか、お湯がなくても大丈夫な液体ミルクも備蓄に加えました。これらの食料や飲料水は、賞味期限の管理を徹底しています。毎年順番に入れ替えますが、期限の近くなったものは市の防災訓練やイベントで配布し、防災意識の啓発に役立っています。アルファ米は水を注ぐだけで食べられますので、その便利さと味をぜひ体験してみてください」

防災のカギは事前準備にあり

さて、これらの物資は避難所で活用するのですが、そもそも災害が発生したときにどう行動すればよいのでしょうか。避難までの動きについて安井課長補佐に確認したところ、

災害が起こる前の準備こそが重要だといえます。

「まず避難とは、難を避けること。つまり、命を守り安全を確保することです。ですから安全な場所にいる方は、必ずしも避難所に行く必要はありません。それを判断する材料がハザードマップです。自宅や勤務先が洪水・土砂災害・津波などの災害に対して危険かどうかを確認し、危険性がある場合はどこに避難するか、どの道を通っていけば安全かなど、確認しておくことが重要です。」

もう一つ重要なのは、日頃から非常時持ち出し品を用意しておくこと。飲料水、食料、懐中電灯、救急用品など、最低限必要なものをリュックやバッグにまとめ、避難するときにすぐ持ち出せるようにしましょう。避難所にはさまざまな物資がそろっていますが、それぞれの人や家族によって「必需品」は異なります。



ハザードマップ

例えば持病の薬、アレルギー対応食品や離乳食、紙おむつや生理用品、防寒具などは、自分で用意しておく安心です。



避難所では助け合って

災害時には、防災行政無線や防災ラジオ、緊急速報メールなどの情報をもとに、自宅が被災する危険がある場合は迅速に避難します。そして避難所に着いたら、地域の皆さんが互いに思いやりを持って支え合い、協力し合うことが何より大切です。

「避難所ではパターションテントの組み立て、物資の運び出し、食料や飲料水の配布など、手伝っていただけるとありがたいことが山のようにあります。食料が配られるのを待っているより、大勢で配れば皆さんに早く行き渡ります。ぜひ声を掛け合ってお協力をお願いします」

在宅避難のポイントは？

一方、安全が確認できた自宅にとどまることを「在宅避難」と言い



①味も種類も進化した非常食 ②総合防災訓練の様子 ③在宅避難に役立つカセットコンロ

ます。これには日頃の防災備蓄が欠かせません。電気、ガス、水道などのライフラインが止まった場合に備え、水は1人1日3リットル、食料は3日分、できれば1週間分を備蓄しておくことが推奨されています。また、カセットコンロ・ボンベ、懐中電灯、携帯ラジオ、モバイルバッテリーなども役立ちます。

今、多くの人が実践しているのが

非常時持ち出し品リスト



非常食



飲料水



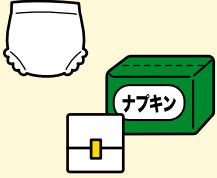
懐中電灯
(予備電池)



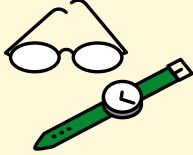
携帯ラジオ
(予備電池)



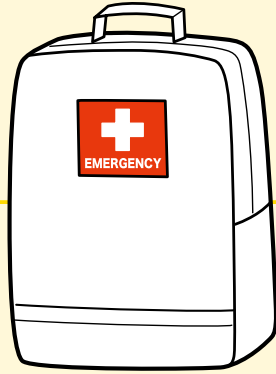
ろうそく・マッチ・
ライター



紙おむつ・生理用品



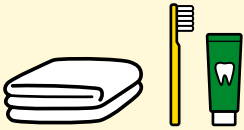
メガネ・時計



缶切り、ナイフ
(兼用のもの)



軍手・ヘルメット



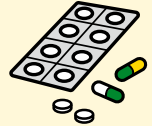
タオル・歯ブラシ



消毒液



応急セット



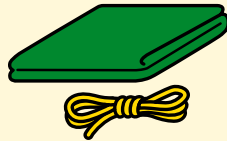
常備薬



お薬手帳



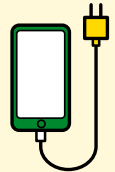
マスク



ロープ・レジャーシート



使い捨てカイロ



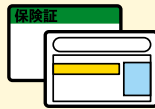
携帯用充電器



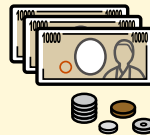
印鑑・貯金通帳



体温計



健康保険証・運転免許証



現金



衣料品
(暖かい衣類・雨具)

ローリングストック。これは、缶詰やレトルト食品など保存がきく食品やトイレットペーパーなどの日用品を少し多めに買い置きしておき、使った分だけ買い足していく方法で、災害時も慌てずに過ごすことができます。

今すぐできる備えを！

防災のために今すぐできることはたくさんあります。ハザードマップには災害危険地区だけでなく、非常時持ち出し品や備蓄品リスト、避難所や情報収集先など重要な情報が網羅されているので、まずはそれを見ながら話し合うことが一番。それをもとに、自分自身の防災行動計画「マイ・タイムライン」を作成してみるのもおすすめです。さらに、防災訓練に参加しておけば、とっさのときに必ず役立つでしょう。

災害が発生してから「備えておけばよかった」と思っても間に合いません。それぞれの地域環境や家族構成に合わせて、先延ばしにせず、今できる備えをしておきましょう！

避難場所やハザードマップは
こちら

